

気になる児童生徒やその家族への対応は、

# スクールソーシャルワーカーにご相談ください。

問題が深刻化してからでは、できることは限られます。『まだそれほど大きな問題ではないけれど、でも気になるな・・・』という段階で、どんどんご相談ください。早い段階で先生方の教育の視点とスクールソーシャルワーカーの福祉の視点が融合することで、問題が大きくなる前に解決できる可能性がグッと高まります。

子どもの様子が  
気になる。  
もしかして、虐待？

最近、〇〇さん  
の集金が  
遅れ気味だ。

福祉制度について  
もっと知りたい。

発達障害の可能性が  
あるけど・・・  
どこに相談すれば？



## スクールソーシャルワーカーは、福祉の専門家です。

学校で起きている児童生徒の問題（あるいは課題）は、複雑化・多様化し、学校だけでは解決が困難な事案も発生しています。問題を抱える児童生徒の支援をより効果的に行うために、私たちスクールソーシャルワーカーは、福祉の視点から学校や先生方を全力でサポートします。



「スクールソーシャルワーカー」と「スクールカウンセラー」の違いは？

「スクールソーシャルワーカー」  
さまざまな関係機関と連携して、福祉的な視点から、児童虐待や問題行動などの背景にある児童生徒を取り巻く環境の改善を図る**福祉の専門家**です。

「スクールカウンセラー」  
心理的な側面から悩みや不安を抱いた児童生徒に対しての相談を行い、さらに保護者及び教職員に対する助言・指導を行う**心理の専門家**です。



# スクールソーシャルワーカーとの連携事例

※SSW=スクールソーシャルワーカー

## <Before>

Aさん(中学2年生)の暴言や授業放棄などの問題行動に対し、教員が再三指導しているが、なかなか改善されない。そこで、Aさんが一番話しやすいという養護教諭がAさんから話を聞いたところ、Aさんの生活背景に家庭の経済的な困難さと、そこから生じる家庭内不和があり、Aさんが情緒的に不安定であることがわかった。



## <After>

SSWが市福祉部局と連携して、学校側から保護者に制度を説明し、福祉サービスに繋げることができたことで家庭生活が改善し、Aさんにも笑顔が見られるようになった。その結果、学校でも落ち着きがみられるようになり、教員との関係もよくなった。その後も関係機関と連絡を取りながら、生徒と保護者に効果的な支援ができるようになった。

## <Before>

Bさん(小学6年生)は、2年生の時から母親と2人で暮らしている。家の中はゴミが散乱し、足の踏み場もなく不衛生な状態である。そのため家庭にはBさんの居場所がなく、落ち着いて家庭学習に取り組める環境ではない。また、母親にも発達障害の傾向があり、対人関係が築きにくく、以前社会福祉協議会のホームヘルプ支援を受けていたこともあるが、トラブルを起こし申請ができない状態である。Bさんが中学校に進学するにあたり、今後の支援の方法を考えたい。



## <After>

SSWは、母親が地域社会で孤立しており、精神的にも不安定な状態であると判断し、母親には、医療機関で受診することをすすめた。さらに、町福祉部局を通じて再度ホームヘルプ支援を申請していくことを説明した。

当初は、SSWのすすめを拒否していたが、根気強く関わった結果、母親は医療機関を受診した。その結果、落ち着いて家庭や地域で過ごすことができるようになった。また、ホームヘルプ支援が給付され家を片付けることができた。

家庭での居場所ができたBさんは、中学校進学に向けて家庭学習の習慣が確立されてきた。

## 家庭支援の充実



## <Before>

Cさん(小学6年生)はネグレクト状態にあるが、児童養護施設に保護されることは難しく、在宅指導となっている。まもなく夏休みだが、学校としてはその間のことが心配だ。



## <After>

夏休み期間中の安否確認を学校だけで行うことは難しいため、SSWの提案で家庭児童相談員、主任児童委員、民生委員、児童館が参加する連携ケース会議を開催し、役割分担をしながらCさんの安否確認を行うことになった。また、母親に対しても、家庭児童相談員や主任児童委員が定期的に声かけをし、受容的な関わりをするようにした。関係機関や地域と協働して支援体制を構築することで、学校の負担や不安を軽減しながら夏休み中のCさんの安否確認ができた。

## 教職員の意識と知識の向上



これまでのケース会議は教員視点で進められていたが、SSWがケース会議に参加することで、児童生徒や保護者に対して新たな見方ができるようになり、支援内容の幅が広がった。SSWの情報提供により、活用できる制度やサービスに関する知識も増えた。